

桜OUDA采

 NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
日本大学 SINCE 1955

第10号



昭和26年頃の学校風景

発行日/2012年7月30日
発行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原1
編集/日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

花の精鋭 (日本大学 第一応援歌)

作詞:東辰三 作曲:明本京静

1、輝く伝統 母校のために
 栄誉担いて 今開く
 花の精鋭 日大健児
 フェアプレイ日大
 フェアプレイ日大
 立て 打て 勝て!
 勝利微笑む 花の日大

2、輝く太陽 燃え立つ意気に
 紅染めて 咲き誇る
 花の精鋭 日大健児
 フェアプレイ日大
 フェアプレイ日大
 立て 打て 勝て!
 勝利微笑む 花の日大

3、輝く瞳に みなぎる闘志
 あたりはらいて 咲き競う
 花の精鋭 日大健児
 フェアプレイ日大
 フェアプレイ日大
 立て 打て 勝て!
 勝利微笑む 花の日大

〔高校キャンパス南上空より：2012年5月24日撮影〕

題号秘話

桜の枝がしだれるという「桜采(おうだ)」の命名とデザイン文字は、創刊当時の廣長威彦氏によるものです。そこには、「幹としての本部と枝としての支部がひとつとなって、互いに成長し続けよう。」との想いが込められていました…。(桜采8号より)

会長あいさつ

同窓の絆 (10年先の未来へ)

日本大学東北高等学校 同窓会会長
第15期卒 柳 沼 正 人



「3.11のあの日」から私たちはすでに二度目の春を見送りました。キャンパス内の桜は今年も満開に咲き誇り、見る者たちの心を和ませました。そして今また厳しい夏の峠を越えようとしています。本当に一年は早いものです。いまだに東日本大震災の爪痕が残り、解明と収束なき原発(放射能)との厳しい闘いの時を過ごしております。しかし、私たちは負けません。幸い母校のある日大キャンパスは、除染作業や土壌改良等によって放射能レベルも落ち着きを取り戻しています。今10号を境に、次世代に向けて今夏もまた「桜染OUDA」から母校の元気印を発信してまいります。

さて、時代の変化とともに学校のあり方や時代を担う生徒も変化します。去る3月の卒業式では「人生とは自分自身が主役を演ずるドラマ」と題して、また4月の入学式では「自分自身に打ち克つことにより、目の前の障壁を克服し成果を上げることが出来る」をテーマに、祝辞を述べさせていただきました。壇上から見る生徒たちの雰囲気にも明らかな変化が感じられました。人が環境をつくり、環境が人をつくるとはよく耳にする言葉ですが、今回の震災を経て生徒たちも目に見えて成長を遂げていることを実感しました。

大震災と原発事故以後、彼らの表情と真剣に耳を傾ける態度はガラリと変わりました。式典での私の声が以前にもまして吸い込まれていくように感じたのです。卒業式も入学式も、厳粛な空気に包まれ生徒らの真剣さが漂っておりました。実に頼もしく、嬉しく感じた瞬間でした。次世代を任せられる子供たちが着実に母校から育っております。

以下、祝辞の中で引用した京セラの稲盛和夫氏の言葉です。「人生とは自分自身が主役を演ずるドラマです。しかし、実生活のドラマでは、単に演ずる以上のことをしなければなりません。自分自身で脚本を書くのです。始めから結末が分っているドラマと違い、どういうドラマを描くのかは、私たち次第なのです。運命は生まれた時から決まっていると言う人もいますが、私はそういう考えには賛成できません。自分の心や考え方を高めていくことによって、運命も変えることが出来る私は信じています。「運命」に抗するというのではなく、自分が演じたいと思う主役の為の脚本を書けるように、心と精神を鍛えてゆくべきなのです。それを少しでも早い時期に実行すれば、それだけ早く自分の人生をコントロールし、日々の一瞬一瞬を真摯に生きて行くことが出来るのです。そのきっかけは、人生の節節(ふしふし)に数多くあるはずですが、ですからそれを求めて必死に努力していけば、チャンスをつかむことが出来るのです。(中略)人生というドラマにおいては、自分を主役にして脚本を書いた人と、目的意識もなく惰性で生きた人では、大変な違いが出来るのです。」

生徒一人ひとりのドラマとともに、「同窓生の絆」のドラマも展開していきます。これからの10年間で母校がどのように発展していくのか胸を躍らせ大いに期待したいと思います。

同窓会会員の皆様、今後とも変わらぬエールを母校に贈ってくださいますようよろしくお願い申し上げます。

校長あいさつ

新任のご挨拶

日本大学東北高等学校 校長
松 井 弘 之



平成24年4月1付で日本大学東北高等学校の校長職を拝命いたしました。歴史と伝統のある本校に着任し、先生方の熱い情熱に触れ、身の引き締まる思いです。本校が安全で安心な学びの場であり、基礎学力の獲得と進路希望の実現、さらに友達と交わる力の養成や、社会性を育てられる学校でありたいと思います。そのためには、心も体も健康で、笑顔あふれる生徒を今後も育てて参りたいと思います。

さて、今春の卒業生の動向ですが、日本大学に193名、国公立に40名、他私立大学に245名、専門学校40名、就職5名という人数でした。東北大学、筑波大学、千葉大学はじめ難関私立大学といわれる大学にも多数進学しています。皆様の後輩たちがこのように活躍してくれています。クラブ活動においても、県大会、東北大会、全国大会に駒を進められるよう日々努力しています。これからさらに大きく飛躍するためにも、同窓生の方々のご支援をよろしくお願いいたします。

ところで、昨今の生徒たちは、自分で考え判断して自ら動くといったことは少なく、人の行動にもあまり関心を持つことなく、自分中心の行動をする生徒が多くみられるような気がします。テレビゲームやパソコン、携帯電話などをうまく使いこなす傍ら、規範意識が希薄になっています。これからの社会を担う人材は、人間性と倫理観が備わっていなければなりません。人の痛みを理解し、喜びを分かちあえる人間でなければ、よりよい社会の発展はありえません。制度や仕組みを動かすのは、結局は人間であり、人の心と理解しております。高校教育のすべては「人間教育」につながっています。伝説の歌手尾崎豊は、デビュー曲「15の夜」で「盗んだバイクで走りだす…」と歌いました。しかしそのような行為が、歌の中ならともかく、「青春」として社会に容認されるはずがありません。その一方で、小児ぜんそくで苦しんだプロゴルファーの石川遼は、6歳頃から父親とゴルフ場に通い、持ち前の精神力と努力で現在の地位を築きました。誰もが彼のようになれるわけではありませんが、高校生という年代は、努力と環境、学業と部活動、友人とのかかわりや家庭など、大人への道程にかかわる要素が多くあります。生徒の「伸びしろ」は無限大です。彼らには広大なフェアウェイを突き進むことのできる力を蓄えてほしいと願っています。また、それをサポート出来る学校でありたいと思います。

一流選手などが「心技体」の大切さをよく口にしますが、組織にも「心技体」があります。技は一流でも心や体がおぼつかなければ信頼はついてしまいます。情熱と真心の精神を胸に、教育目標の「忠恕の心」「自主創造」「真剣力行」を一人ひとりの生徒が達成できるよう、本校教職員一同、協力しながら頑張って参ります。先輩方が築かれた歴史と伝統の重さを体感しながら、大きく発展させていく所存ですので、今後ともなにとぞご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

永遠に栄えよ我が母校

機械科1組 昭和30年卒 2期生
相楽 新平



顧みると、五十数年前の事なので正確に思い起こすことは出来ないが、中学二年の初め頃、今は亡き父が私に自ら高校進学の話を持ち出した。「大学へ進むなら普通科のあるところが良い。しかし、これからは機械や電気、化学が主流となる時代が必ず来る。そうすると普通科より専門的な技術が身に付く工業高校が良いだろう。」と。父は私を大学に進学させてやりたい気持ちを強く持っていたようだが、自身の身体の事もあって迷っていたように思う。「技術を身に付けば就職の大きな武器になる」と語る父は、私の行く末を案じ、事前に三つの専門高校を調査したうえで、郡山にある私立の日本大学東北工業高校を勧めたのである。これが私と母校との出会いの契機となった。そこは、以前高い軍事技術を誇る飛行場として使われ、機械器具等が整っているの、学ぶには最高の学校だと言うのである。父の希望する学校に入学できることで感激も一入であった。私は大きな夢と期待に胸を膨らませ、晴れて第二期生として機械科に入学した。同じ中学からは私の他に三名が入学したが、第二期生の中には有名な県立高校に合格したにもかかわらず、それを辞退して入学を決意した者が複数いたことから、父の言う通りの学校だと思った。

入学式は、父が病に伏していたため叔父が代わりに出席してくれた。式の当日は他の方はいずれも親子同伴であったため、和やかな会話がとても羨ましかったことを覚えている。

その父は、私が入学した年の八月、四十六歳の若さで他界した。母は小学校一年の時に他界していたので、私の高校生活の大部分は両親のいない状態だった。

こんな状況では高校生活を続けることは困難だと思い、毎日欠席を繰り返していた。そんな時、今は亡き担任の加藤五良先生から「学費等は何とかなるから学校を続けることが大事だ」と励まされ、また、多くの友人からも激励されて学校を続けることができた。

小塩江地区は須賀川市の東部に当たる。ほとんどの生徒は通学に水郡線を利用していたが、授業料の他に定期券を購入する余裕は私にはなかった。毎日約20km道のりを、自転車で通った。友人の一人も自転車通だった。共に励まし合いながら、雨が降ろうと雪が舞おうとお構いなしに通い続けたが、道中は会話に花が咲いて楽しかった。今日のように道路が舗装されてはいないので、一番の近道を見つけては、そこを通学路としていた。今考えると、それは多分田圃の畦道だったのかも知れない。

さて、高校は創立間もない事もあり、環境的には決して満足の出来るものではなかった。校舎は兵舎を改造したものであったし、教室や廊下は薄暗く、体育館は大学と共有であった。また授業が始まっても担任の先生が来なかったことも多々あったが、それでも何処と無く誇りに思うことが多かったのは不思議だ。おそらく、大学で教鞭をとる先生方に学んでいるという自負心と、中学時代とは異なり、工業高校では今まで学んだ事の無い専門科目があり、興味

深く学ぶ事が出来たからであろう。クラブ活動は柔道部に所属した。開校間もないこともあって、もちろん道場などは無く、校庭の隅にある草むらで練習を続ける日々だった。草むらには、所々に小石が散乱しているので、これを取り除くことから日々の練習は始まる。取り残した小石で、練習中よく怪我もした。今日では考えられないことだが、当時それが当たり前だと思っていたので、慣れというものは恐ろしいものである。二年生になると、本格的な専門科目の教育を受け、製図や実習の機会が多くなり、実習では旋盤を使ってネジを作ったり、鋳型を組んで歯車を完成させたりと、物作りの喜びを味わった。より実践的な技術を身に付けるため、夏休みを利用して、郡山にあった国鉄の工機部で職場体験をしたこともあった。

ところで、この頃は大変な就職難で、「大学は、出たけれど」と言った映画が大ヒットし、次男三男対策が国政の最大の課題になっていた時代である。幸いに私の場合は東京の自動車部品工場への就職が内定したので、安心出来た。憧れの東京での生活を夢見つつ、中学校から直接就職した多くの同級生とも逢えるので、心もうきうきしていたのを覚えている。ところがそんなある日の事、父の遺書に従い、急遽大学に進むことになった。進学は諦めていただけに、苦を突き貫けた歓喜の中で日本大学東北工業高校を卒業した。高校での生活を総合すると、多くの若い先生方や先輩、そして友人に支えられた喜びが大きかった。

大学を中退し、その後須賀川市役所へ入所した。平成七年に市収入役に就任した際、須賀川支部同窓会の会長である柳沼力夫先生、本部副会長の村山広嗣氏の格別な計らいにより、就任祝賀会を開催して頂き、無上の喜びを味わうことが出来た。また、母校の応援団数拾名の「ガンバレ、ガンバレ」のエールを受け、感激感動に浸るばかりであった。今でも生徒の活気に満ちた姿が脳裏に焼き付いている。

後に市長就任の際は、母校で講演する機会を与えていただいた。私の人生体験からお話しさせていただいたが、話し声一つ無く真剣に傾聴する姿は想像以上であった。生徒の教育がこれほどまでに徹底していることに対し、学校関係者の皆様に心から感謝と敬意を表したい。

現在私の所属する須賀川支部では、毎年支部総会をかねて同窓会が開催され、旧交を温めている。その都度校長先生などから学校の近況報告を受けているが、今や立派な進学校と化し、我々の通学した時代の学校とは大きく様変わりしていることを誇りに思っている。社会に有為な人材を多く輩出し、集う生徒らが各自の使命を果たすことを心から願ってやまない。

わが母校よ、永遠に栄えあれ！



機械科の実習風景

平成23年度 母校の様子 1年間のあゆみ

- 4月 April**
- 14日(木) 入学式
15日(金) 対面式／着任式／始業式
- 5月 May**
- 2日(月) 全校集会
6日(月) 授業参観(第1回～11日)
- 6月 June**
- 1日(水) 衣替え／全校集会
25日(土) 工学部学科説明会(3年生徒・保護者対象)
28日(火) 第1学期期末試験(～7/1)
- 7月 July**
- 12日(火) 校内体育大会
16日(土) アカシヤ祭(一般公開)
- 8月 August**
- 3日(水) 第35回全国高等学校総合文化祭(～7日)
16日(土) 第2学期始業式／生徒会役員選挙告示
- 9月 September**
- 15日(木) 入試説明会(中学校教員対象)
26日(月) 生徒会役員選挙
- 10月 October**
- 1日(金) 校内マラソン大会／衣替え
4日(火) 第122回日本大学創立記念日
- 11月 November**
- 12日(水) 日本大学統一テスト
17日(水) 修学旅行(A班)(～21日)
- 12月 December**
- 5日(月) 第2学期期末試験(～8日)
22日(木) 第2学期終業式／成績会議
- 1月 January**
- 11日(水) 第3学期始業式／服装指導
14日(土) 大学入試センター試験(～15日)
- 2月 February**
- 6日(月) 一般入学試験(休講)
18日(土) 予餞会
- 3月 March**
- 1日(火) 第59回卒業証書授与式
2日(水) 第3学期期末試験(～6日)

平成23年度 卒業生合格状況 平成23年度卒業生総数404名

日本大学 193名 国公立大学 43名 他私立大学 257名
専門学校 43名 就職 5名 ※延べ人数

◆ 日本大学

法	13	国際関係	8	生物資源科	12	商	9
文理	21	理工	30	薬	4	工	60
経済	18	生産工	8	短期大	5	芸術	5

◆ 国公立大学

大阪大学	1	東北大学	2	筑波大学	2
千葉大学	2	電気通信大学	1	埼玉大学	2
東京学芸大学	1	新潟大学	2	宇都宮大学	2
茨城大学	1	宮城教育大学	1	福島大学	5
群馬大学	1	山形大学	4	秋田大学	1
北教大釧路校	1	福島県立医科大学(医学部)	1	福島県立医科大学(看護学部)	2
横浜市立大学	1	前橋工科大学	2	高崎経大	1
会津大短大部	4	防衛大学校	2	国立看護大学校	1

◆ 私立大学

自治医科大学	1	獨協医科大学	1	聖マリアンナ医科大学	1
早稲田大学	2	上智大学	1	東京理科大学	7
中央大学	12	明治大学	3	青山学院大学	6
立教大学	1	法政大学	6	立命館大学	9
学習院大学	2	成城大学	1	明治学院大学	1
北里大学	2	東北福祉大学	5	国際医療福祉大学	10

ほか

平成23年度 退職された先生



【校長 地歴公民科】
松本 幹雄
まつもと みきお
平成24年3月退職
(49年間在職)
平成21年4月1日～
本校 (3年間)



【国語科】
寺井 明治
てらい あきはる
平成24年3月退職
(43年間在職)



【国語科】
安藤 美政
あんどう よしまさ
平成24年3月退職
(39年間在職)
平成11年4月1日～
本校 (13年間)



【国語科】
山崎 知加
やまざき ちか
平成24年3月退職
(7年間在職)



【国語科】
関根あゆみ
せきね あゆみ
平成24年3月退職
(3年間在職)



【理科】
小牧 大祐
こまき だいすけ
平成24年3月退職
(6年間在職)



【理科】
渡辺 麻実
わたなべ あみ
平成24年3月退職
(2年間在職)



【数学科】
小玉真理子
こたま まりこ
平成24年3月退職
(9年間在職)



【数学科】
丸山 剛
まるやま つよし
平成24年3月退職
(1年間在職)



【数学科】
松崎 一寿
まつざき かずひさ
平成24年3月退職
(7年間在職)



【英語科】
柳川和雅子
やながわ わかこ
平成24年3月退職
(3年間在職)



【事務課長】
吉田 廣幸
よしだ ひろゆき
平成24年3月退職
(47年間在職)
平成21年4月1日～
本校 (3年間)



【事務課】
佐々木寛之
ささき ひろゆき
平成24年3月退職
(4年間在職)



【高校事務課】
原田 理恵
はらだ りえ
平成23年5月退職
(7カ月間在職)

※敬称略

三世代賞

「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母様への三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。



古川一喜君・岩谷健雄君・内山尚大君

平成23年度は岩谷健雄君(本宮第一中)、内山尚大君(郡山七中)、古川一喜君(郡山第七中)の三名が受賞。受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品としてデジタルフォトフレームが贈られました。平成22年度までに9名の受賞があり、今回の3名(写真)と合わせると計12名の受賞となっています。



支部だより

須賀川支部総会および新年会

平成24年2月24日(金) 於:ホテルサンルート須賀川
23名+会長・教頭・事務局会計 26名



南達会(本宮市・大玉村)総会

平成24年1月21日(土) 於:本宮市割烹かわはら
27名+会長・校長・事務局長 30名

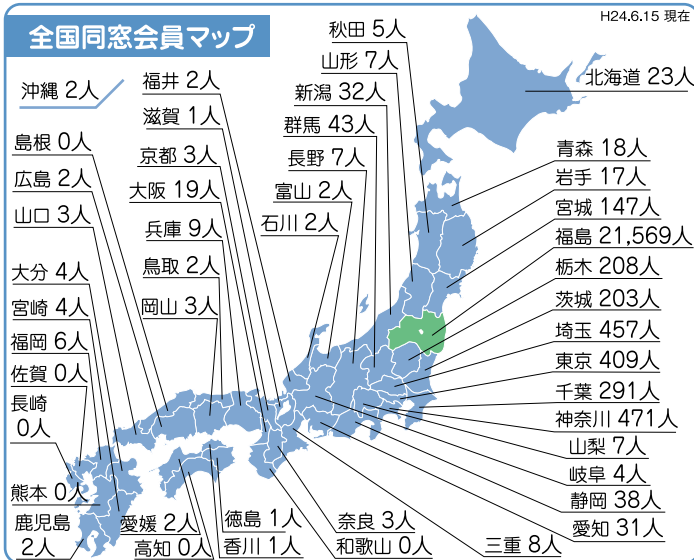


平成23年 役員・支部名簿・連絡先・会則変更点については、
下記ホームページをご覧ください。

お近くの支部へ連絡をご希望の方は、最終ページのはがきまたは、
HPの問合せフォームより事務局までご連絡ください。追って最寄り
の支部をご紹介させていただきます。

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

全国同窓会員マップ



心静緑感広場



心静緑感広場内
水路のホタルの
様子



工学部環境保全
共生共同研究センター
4Fに設置されている
CANBERRA(キャンベラ)



産経新聞掲載

「朝の詩」

阿部

正栄

国語科教諭

同窓会副会長

第14期卒

平成23年3月11日
午後2時46分

この日まで一滴の水が体の奥まで
しみわたる喜びを知らなかった。

この時まで一個のあめ玉を分けて
なめる幸せを知らなかった。

つぶれたわが家
地割れした道路から
真つ青な空を見上げる

北帰行の白鳥たちが
はげましの鳴き声
あけて飛んで行く。

平成23年5月2日掲載

大きな傘

まつりごとの人よ
大きな傘を
被災のみんなに
さしかけて下さい

私たちは
身も心も涙も
涸れた田畑です
夜には傷という傷が
いつせいにうずき
余震に揺れます

まつりごとの人よ
大きな傘をひろげ
寄り添って下さい

私はことばが
見つからず
店にはられた
がんばろうの文字を
見ていることしか
できなかった。

平成23年6月24日掲載

ことば

ふと立ちよった食堂。
流された母が
見つかった場所に
花を供えてきたと
相席の若者が
そばをすすする
涙をすすする

まゆは鶴のとぶ姿
口ひげは亀
口の下は竹
顔の両側は松と梅
これがふるさとの
春を呼ぶだるま市

今年こそ笑顔と
ほほえみだるまを買
「仮設住宅」の
小さな柵に
大きくかしわ手を打ち
にこにこして飾った

平成24年2月2日掲載

だるまさん

今年こそ笑顔と
ほほえみだるまを買
「仮設住宅」の
小さな柵に
大きくかしわ手を打ち
にこにこして飾った

平成24年3月17日掲載

キャンパス内の工学部に蛍が飛び始めました!

同じ敷地内の工学部キャンパスに蛍が飛び始めました。これは5月28日(月)にスタートした「ふるさと創生支援センター」の「キャンパスの安心・安全見える化事業の一環」である「ほたるの光プロジェクト」の成果です。

東京都板橋区ホテル生態環境館 阿部宣男館長のご指導・ご協力により、学部キャンパス内の心静緑感広場内水路に、ゲンジボタルの幼虫150匹、ヘイケボタルの幼虫300匹を放流しておりましたが、ついに6月21日(木)にホタルの光が観測されました。2種のホタルは成虫となる時期が異なるため、約1か月間(お盆頃まで)観測できます。ホタルは水をはじめとする環境が整っていないと生きられません。特に環境放射能レベルが高ければ光らないとのこと。今回工学部にホタルが飛び始めたことで、高校を含むキャンパス内の安心・安全が確認されたこととなります。一度生息したホタルは、環境が大きく変化しなければ毎年同じ時期に見ることができそうです。

お近くにお住まいの方で観賞される方は、ホタルにストレスを与えないよう、静かに見守っていただければ幸いです。年々ホタルの数が増えて、郡山や福島、そして被災地の復興のシンボルの光として輝き続けてほしいと願います。キャンパス内の春の桜に加え、夏のホタルが郡山の名所として紹介される日も遠くないかも知れません。

高校と大学の食堂では「食の安全安心の一環」として、食材と調理された料理の放射能レベルを検査していますが、基準値を超える数値は出ておりません。すべて安全であることが確認されています。



クラス会だより

「小山田正宏先生を囲む会」38年ぶりの開催

普通科3組 昭和49年卒 21期生 齊藤 利一様

前日の雨も上がり、当日は朝から爽やかな日となりました。今回の「小山田正宏先生を囲む会」は、先生のご退職のご慰労と併せて先生を囲み同級会を開催しようというものでした。以前から、有志の間で「同級会をやろう。」との声が上がるものなかなか前に進みませんでしたが、ようやく念願が叶いました。開催への準備は、友人のなじみの酒処でにぎやかに進めました。中間では先生にも入っていただきましたが、案内文の校正を受けるという相変わらずの有様でした。省みますと昭和46年4月に母校の門をくぐった我々は、学業やス

ポーツ等頑張ったつもりでしたが、時として方向が違ったこともあり、先生にはご心配とご苦勞をおかけしたんだろうと今になって痛感しています。しかし、先生には全身で受け止めていただきました。昭和49年3月に無事卒業し、それぞれの目標に向け、袂を分かれて以来38年ぶりの再会となりましたが、29名の級友が駆けつけてくれました。

司会の開会の言葉に始まり、先生の「朝のホームルームを始めます。」の号令に、和やかに進んでいきました。現在、先生は水彩画を勉強しておられるとのこと、次回はそこ披露にあわせて開催を計画することでまとまりました。一方、級友の近況報告では、皆相応に年輪を重ね、「大変だけど頑張っているな。」と強く感じました。一次会・二次会を万歳三唱、校歌合唱で結び、母校の発展を願いつつ再会を期しました。



風薫る
友の集いて
師を囲む
肩の荷降りし
満願の笑み
齊藤利一

機械科1組 昭和36年卒 8期生 佐藤 輝雄様

私達同級生は、今年古稀となる記念の年を迎えました。そこで去る6月3日(日)に、一泊二日で東京上野池の端にある「水月ホテル鴨外荘」で同級会を開催しました。開会に先立ち故人となられた7名のご冥福を祈り、命と健康の大切さを確認し合い心に刻みました。

さて、第1回の同級会は昭和63年1月2日、郡山駅前「丸新」にて、担任の太田 努先生を囲んだのが始まりでした。以来2年に一回開催され、今回で第6回目の開催となりましたが、幹事を含め15名の参加となりました。初めての東京開催ということで、10名の幹事が3回ほど念入りに打合せを持ち、準備を進めました。実はこの幹事会が思いのほか楽しくて、終電で帰宅することもあったほどです。

さて、宴会では近況報告や高校時代の思い出話等で盛り上がり、懐かしいひと時を過ごしました。宴たけなわともなると、次第に無礼講となり、カラオケの熱唱で夜の更けるのも忘れるほどでした。翌日は、この夏話題の浅草、「東京スカイツリー」を見学し、2年後の那須温泉での再会を固く約束し散会となりました。



建設科1組 昭和36年卒 9期生 渡辺 啓史様

新緑の候、同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、5月13日に磐梯熱海温泉の金蘭荘 花山にて、建設科1組の昭和36年度卒業生(第9期生)の同級会並びに古希祝いを行いました。

50年ぶりに会う人も多く、顔と名前が一致せず、胸に付けている名札がありおおいに助かりました。担任であられた山口先生に御出席して頂き、元気なお姿には全員が喜び嬉しくおもいました。

記念撮影の後に、故人になられた12名の同級生と、東日本大震災で犠牲になられた方々の御冥福を祈り1分間の黙祷を捧げました。

開会として、元応援団副団長の心援タクトで校歌を歌い、先生のご挨拶と進み、会はおおいに盛りあがる。50数年前の在校時のことから最近のことまでを夜が更けるまで語りあい、2年後の開会を決定し、再会を約して散会……



普通科1組 昭和43年卒 15期生

柳沼 正人様

15期卒普通科1組2組合同ミニ同窓会

4月21日(土)から一泊2日の日程で、磐梯熱海の「華の湯」にて15期卒の普通科1組2組の合同ミニ同窓会を開催いたしました。

一昨年は6人(昨年は震災のため開催できず)でしたが、本年は2名増加の8人となり、以前にもまして話に花が咲きました。来年の開催は今年の倍の16名としたいと今から意気込んでおります。参加をご希望の方はご一報ください。以上、ご報告いたします。



電気科2組 昭和38年卒 10期生 **渡辺 忠義様**

ブラスバンド部創設時の想い

高校を卒業して50年目を迎ようとしている私ですが、先日事務局長の高橋様から電話があった時に、ブラスバンドの卒業生の会を開くなら、「会報」を通じて情報を集めてみてはどうでしょうか、とのご提案をいただき早速載せていただくことにしました。創設時、私は2年生でした。選考のための実技(ラッパ吹き)があり、トランペットに興味があった私は、無事に音が出て部員採用となりました。当時学校は財政状況が良かったせいか、スーザホーン(肩にかけ背負った状態で吹く大きなラッパ)なども購入し、総勢20人以上はいたかと思います。設立当時部長だった私は、ブラスバンド部担当の国分先生(数学担当)の厳しい指導のもと、日々練習を積み重ね、新入生の歓迎会には演壇の上で演奏をし、父兄の方より「あの生徒たちは、ラッパばかり吹いていて、勉強はやっているの!」などとお褒め(?)の言葉などいただきました。また、夏の高校野球大会などの応援には、ワイシャツが黄色味を帯びるほど汗だくになって演奏をしたものでした。

このたび、卒業をしたブラスバンド部員を募って、懐かしいむかし話などをしてみたいなどと思い、氏名、住所、連絡先、などの情報を広く収集します。何人の方の情報が集まるのか全く見当もつきませんが、友達あるいは会社の同僚、知り合いなど、昔ブラスバンド部員だった方の情報がありましたら、下記へ連絡をお願いします。



連絡先責任者
渡辺 忠義

福島県田村市滝根町菅谷沖田248-2番地
連絡方法:メールかFAXをお願いします。
メールアドレス:ew8fk6@bma.biglobe.ne.jp
FAX:0247-78-3556



実験棟A・B・Cの解体工事实施中

第2体育館南の実験棟A・B(どちらも3階建)および実験棟C(平屋)の解体工事が7月から9月にかけて行われています。

工業科時代の方々にとっては寂しい限りではありますが、老朽化と震災の影響による損傷のため、今回の措置がとられるようになりました。



除線作業 表土交換



実験棟 取り壊し前



高校南門そば



工学部本館南側

線量計(0.2~0.3mS/h)

- 同窓会会報についての質問・ご意見・ご要望等があれば、下記へご記入の上、ご投函ください。

Form area for submitting questions and comments, containing horizontal dashed lines for text entry.

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、下記の☑印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

会報・案内の送付を希望しない。

日本大学東北高等学校同窓会事務局
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



事務局よりお知らせ

《全国大会出場の部・愛好会への応援よろしくお祈いします。》

7月17日(火)、会長から全国大会出場を決めた部・愛好会の選手諸君に激励金が手渡され、熱いエールが送られました。全国出場の部・愛好会は以下の通り。陸上競技部、体操部、柔道部、硬式テニス部、ライフル射撃愛好会。(7/14日現在。その後決定した関係部を除く。)卒業生の皆さま、どうぞ応援よろしくお祈いいたします。



《平成25年発行予定の「桜采OUDA 11号」の原稿を募集いたします。》

お陰さまで、卒業生の皆さまよりクラス会の情報や記事がぞくぞくと寄せられております。今後もクラス会等の記事を継続募集しますので、よろしくお祈いいたします。また、来年(平成25年)に30歳、40歳、50歳、60歳、70歳という節目の歳を迎えられる卒業生の方々の近況報告や高校時代の思い出等も募集いたします。併せて、本校の歴代の生徒会長、各部長を経験された方、ぜひ原稿をお寄せ下さい。応募要項は次の通りです。ご本人のお名前・卒業年度・科・卒業時担任名・連絡先(住所、電話またはFAX番号)を明記の上ご応募ください。

- 1) 原稿内容:高校時代の思い出やエピソード。
- 2) 文字数:400字~800字以内。
- 3) 締切り:平成25年5月15日(水)到着分まで。
- 4) 応募方法:メール、FAX、お手紙でもお受けいたします。
- 5) 応募先:メールアドレス stakahashi@tohoku.hs.nihon-u.ac.jp FAX 024-956-8843
〒963-1165 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番地

《同窓会のHP(ホームページ)について》

本校の公式HPの同窓会リンク(アカシア会)より住所変更が可能です。お友達や知り合いの方で会報誌が届いてない方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。下の「はがき」または同窓会HPの「住所変更」をクリックすることで、手続きが可能です。また、「お問い合わせ」のページから事務局へお問い合わせいただくことにより、クラス会などの案内情報を発信することも可能です。お気軽にご相談ください。さらに、会報誌「桜采OUDA」は1号~9号のバックナンバーを含めて、すべてHP上でもご覧になれます。



編集後記

梅雨明け前の九州地方を中心とする大雨は大変なものでした。被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。南北に長く伸びた地形をもつ日本は、地震や大雨(洪水)、そして台風などの自然災害と闘いながら歴史と伝統を築いてきた国だったのだとつくづく思われます。さて、今夏はロンドンオリンピックの話題で持ち切りです。日本選手勢は何個の金メダルを獲得できるのでしょうか。実は柳沼正人会長も「金」を獲得されました。平成21年の「銀」

に続く受賞です。もっとも、これはモンドセレクション・ソフトドリンク&ノンアルコール飲料部門(「冷やし甘酒」)の話ですが…。いつも元気印を発信される会長から、私もたくさん元気をいただきました。「桜采10号」を通して、皆さまにも「元気」が届けば幸いです。発行に際し、お忙しい中、時間を割いて投稿くださったすべての方々をはじめ、関係各位に心よりお礼申し上げます。【事務局】

郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0

料金受取人払

郡山支店承認

2188

郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会事務局 行

差出有効期限
平成26年8月5日迄
です。切手をはらず
にお出ください。

【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。
上記1の使用に当っては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシア会))へ上記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会事務局
郡山市田村町徳定字中河原 1
<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



現住所	〒		都道府県	
TEL	携帯			
氏名	生年月日	男・女		
卒業年	※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築			